



today's guest

サガン鳥栖

2009 J2第5位

J2通算対戦成績:1勝2分4敗

■2009成績

第10節 09/04/25 岐阜0-1鳥栖

第2節 09/07/08 鳥栖1-1岐阜

第4節 09/10/04 鳥栖1-0岐阜

■2010成績

第13節 10/05/15 鳥栖3-0岐阜

2010J2 順位表 ■第3節

(※消化試合が1多い)

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 岐阜から見て)

#1 柏	72p	+41	63	22	H●	A●
#2 甲府	65p	+31	65	34	H●	
3 福岡	58p	+25	56	31	A○	
#4 東京V	52p	+12	40	28	H●	A●
5 千葉	51p	+20	52	32	A●	H○
6 横浜FC	50p	+10	51	41	A●	H●
7 熊本	46p	-4	32	36	A●	H△
8 栃木	44p	+5	39	34	A●	
9 鳥栖	43p	0	38	38	A●	
10 徳島	41p	+1	46	45	A●	H○
11 愛媛	41p	-2	26	28	H△	A△
#12 岐阜	41p	-12	28	40	---	---
13 札幌	38p	-5	31	36	H○	A△
14 大分	37p	-9	35	44	A●	H○
15 草津	36p	-14	27	41	H○	A●
16 水戸	33p	-13	24	37	H○	A○
17 岡山	31p	-20	22	42	H○	A△
18 富山	23p	-29	33	62	H○	A●
#19 北九州	15p	-37	19	56	A○	H○

次回 HomeGame

第3節

アビスパ福岡戦

11/23 (火・祝) 12:00

@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

F C岐阜大好き通信 (岐大通)

11/14号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田靖造

■編集子より■

ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、
よろしくお願い致します。

◇初めて、対戦相手の昇格を見届ける。この悔しさは忘れない。
柏3-0岐阜【第3節】

●F C岐阜はアウェイで柏と対戦し0対3で完敗。J1昇格を目指す柏と10位進出を目指す岐阜との差が出たか?。残り試合はあと4。悔いなき戦いを。F C岐阜頑張れ!

(ハマツチ)

●柏駅東口にある神社、4年前にかむかむレモン大量購入したマツキヨ、レイソルイエローに染まるスタンドの光景……全てがああの時のままだ。変わったのは、筆者が岐阜のフットボールの灯を絶やさぬため、立ち上がった事だ。少し感慨深くなってしまったが。さて、柏サッカー場での第33節、相手は引き分け以上でJ1返り咲きが決まる柏レイソルだ。ホームでの昇格決定という、おあつらえの舞台を阻止するためには、勝利しかないという、いささか厳しい状況だったのだが…。

立ち上がりからレイソルは嵩にかかって攻めてきた。ふっと思い浮かんだのが、昨シーズンのプレミアリーグ最終節、チェルシーとマンUが勝ち点で並んでいて、得失点差でチェルシーが大きくリードしている状況でホームにウィガンを迎えた一戦だった。序盤でウィガンを突き放し、そこからは「お祭り」と化してしまったのだ。ウィガンの戦意は喪失し、大量8-0。チェルシーが優勝に華を添えた。この日のレイソルも、序盤で得点すれば、大量点の流れになり、ホームで昇格決定の上にゴールラッシュと、ファンにはたまらない展開になったはずだ。しかし、今日はどうか耐え、スコアレスで前半を折り返す。

だが、ピンチはディフェンスラインで持ちすぎていることに起因することだと思う。このように前がかってきている相手に、リスクを犯してまで危険地帯で持つ必要性はない。まずはセーフティーに行っておくべきだった。事実、後半12分には北嶋に均衡を破られてしまうが、このFも遠因は、マイボールを必要以上に自陣で持ちすぎたところから始まっている。「プレーをはっきりさせること」「判断力」が必要だろう。また、この試合、セカンドボールを全くと言っていいほど拾えなかった。長身の選手が多いのだから、これはもう少し工夫次第で解決できると思う。やはりセカンドボールを処理できないと、主導権を握られてしまう。また、この日のレイソルは有効なサイドチェンジ、と思ったボールがズレたり届かなかったりで、こちらのスローインになるケースがちょこちょこあった。しかし、そのスローインをワンプレーで相手に渡してはどのようにもならない。リズムもくそもないし、息つくヒマもない。ベクトルが守→攻に向いたときにまた攻撃を食らうのだから対応は後手を踏むし、消耗もするだろう。ハーフタイムに隣のサポーターとも「あれはダメだね。」と話したものだ。

細かいところの「差」が積み重なり、「3-0」という結果にはなったが、しかし筆者は、今日のゲーム、スコアほどの差はなかったと思う。上回ったのは、やはり「ホームで昇格を決める」という相手のモチベーションではないだろうか。FC岐阜も「善戦」という評価はできると思うが、シーズン終盤、1つでも順位を上げるために、勝ち点が欲しい。「0」ではダメだ。今日のゲームから何を学んだかが重要だ。現時点でこれだけの「差」がある。「屈辱」という高い授業料は払ったが、その勉強の成果は、ホーム3連戦「勝ち点9」をもぎ取るという形で示して欲しい。

着実にステップアップはしている。敗北を糧に、さらなる高みへ!!

(2006年仕事で常磐線乗車時寝過ごして取手まで行った男)

●目の前で昇格劇など見たくない、そんな気持ちで敵地日立台に乗り込んだが残念ながら、力の差をまざまざと見せ付けられる結果となってしまった。前半は柏にもミスが目立ち、これはひょっとしてなどという気持ちも芽生えたが今から思うと、ウチの出方を伺って流し気味に試合を進めていたのかもしれない。

この試合で残念な場面が一つ。現地で見られてた方やTV観戦していた方々には分かるかもしれないが、左サイドで(名は伏せますが)とある選手がボールを持っていた。前方には味方選手が柏のディフェンスを2人ほど引き連れて左側に流れようとしていて、前方にははっきりスペースが空いて、ドリブルで仕掛ければペナの近くあるいは中まで進入して十分にシュートまで持っていけるような状態であった。にもかかわらずその選手は左に流れた味方選手にパスを出す有様…なぜ自分でドリブルで仕掛けたりシュートを打ちに行くような積極性がないのだろうか?「人任せにするな!」と怒らずにはいられなかった。

試合後に柏ゴール裏で繰り広げられた昇格決定のセレモニー。悔しくて仕方がなかったがこの光景を目に焼き付けて今後の糧にしなければと思い、しばらくじっと見つめていた。いつか岐阜もあちら側へ行こう。そんな風に強く思いながら……。 (岐阜の誇り)

※柏戦のレポートは裏面に続きます※

◇約6ヶ月のホーム不敗もストップ（泣）。 岐阜0-1横浜FC【第3節】

●F C岐阜は長良川で横浜FCと対戦し0対1で惜敗。試合終了間際の失点は痛い一言。やはりホームで応援するサポーターのためにも勝ってほしかった。上位進出のためにサポーターは熱い応援を！F C岐阜頑張れ！（ハマッチ）

●気持ちで負けたのかな、そんなことを思わせるような試合だった。

アウェーのゲームでは、個の能力でそれほど差があるようには感じなかったし、やはり、「大黒」というストライカー1人にやられてしまった印象はあった。しかし、その大黒はFC東京へ去った。より、「組織としての完成度」が問われると考えていたのだが…。

横浜FCの攻撃は、今F C岐阜に足りないもののヒントがあったような感じがした。長短のパスを小気味よくつないで攻め込んできたが、当然、大黒が抜けて戦い方を変えたと言うのもあるのだろうが、三人目の動きやパスの質など、今の岐阜のアタッキングサードの部分で欠けているものが見えたような気がした。この日は何とか守備陣が踏ん張り、得点は与えず、逆に前半終了間際にはF C岐阜が決定的なチャンスを迎えるが、相手ゴールキーパーのスーパーセーブにあい、得点ならず。前半はスコアレスで折り返す。

後半に入り、互いに選手交代等で打開を図ろうとするが、なかなか得点には結びつかない。それにしても岐阜の攻撃はアタッキングサードからせっかく逆サイドにフリーがいても使わなかったり、わざわざ密集している中央に送ったりと能率が悪い。このゲームは特に得点の「におい」というものがしなかった。

スコアレスドローを予感していた筆者だったが、結末は最悪なものになってしまう。ロスタイムに、横浜FC久木野の得点を許し、「勝ち点1」を上げる事すら出来なかったのだ。0-1での敗戦。しかし、失点直後、うなだれたようになってしまった選手たちの姿勢には非難の声を上げた人もいたのではないのだろうか。確かに、ロスタイムの失点は「死刑宣告」にも等しいものだが、まだ笛が鳴ったわけではない。すぐボールを戻して始めれば、同点に出来るじゃないか。「サッカーは何が起こるか分からない」ロスタイムの間に追いつけないなんて、誰が言えるだろう？シーズンも終盤に差し掛かり、選手の疲労もピークに達している。だからこそ「メンタル面」は大きくモノを言う。

この日の敗戦で、2つの負け越しとなってしまった。なんとかシーズンを五分の星、あるいは勝ち越しで終えるためには、今後の対戦カードで、柏、福岡、甲府と昇格争いの上位3チームから勝ち点3を上げる必要が出てくるだろう。そういう点でもこの日のゲームは勝っておきたかったが…。

しかし、この敗戦の悔しさから何かを得たはず。今一度ギアを入れなおして、ラストスパートを、戦う気持ちを見せてほしい。

次戦は首位柏が相手。ここまで2敗しかしていない強敵だが、そんなに昇格はたやすい道ではないものだということを、思い知らせてやりたいものだ。

（小田急線新百合ヶ丘駅界隈に30回は訪れたことのある男）

●お互いに攻めあうものの、最後の部分でのミスが目立ちなかなかゴールを割ることの出来ない展開。このままスコアレスかと思われたときに、横浜はカズを投入してきた。あれで、横浜のギアがぐっと1段上がったような感じがした。根性を売りにする岸野サッカーは大嫌いだが、最後は横浜のゴールを決めよう、勝とうという執念のようなものが、岐阜のそれを上回ったんだと思う。

岐阜はこういった終盤までもつれるようなゲームをモノにするようなことが出来れば勝ち点を積み重ねて上位に食い込んでいくことができるだろう。5月の柏戦以降ずっと続いてきたHomeでの無敗記録も途絶えてしまったがHome戦も残り3試合、最後まで熱い戦いを繰り広げていってもらいたい。

（岐阜の誇り）

●う～ん、勝ちたかった。勝たせなかった。ボクの中では今季のベスト・バウト。ただし、90分までなら、という注釈がつくのが残念だ。ホント、勝ってればなあ……。

終了間際の同点ゴールという前節の勢いのままに、前半からチャンスを作りシュートを放つ。相変わらず押谷はフォア・チェックからフィニッシュまでキレていたし、優大、正吾もポジション・チェンジから組み立てに絡み決定機を演出。秋田の上がり下がりには実にエネルギーで、惜しいシュートも見せてくれた。秀人の攻撃参加もアクセントになっていた。吉本はいつも通り効いていたし、キャプテンや村上の献身的な守備、永芳や池上の気の利いたプレーも随所に見せてくれた。恭平の好セーブは言うまでもない。本当にスタメンの選手はできる限りの働きをしてくれたと思う。もちろん、交代出場の川島、基棟、そして洗一も精一杯やってくれていた。ただ、この日に限って言えば、優大と押谷を下げて基棟と洗一を入れたことが有効だったかどうか……。がんばって走ってくれてはいたが、ボールが収まるでもなく、裏のスペースを突ける訳でもない。二人の相乗効果どころか、互いに重なり合い、良さを消すような状況になってしまったような気がしないでもない。その辺りがもったいなかったかな？

と、リッパなことを書いてはみたが、実は帰って録画を見るまでカズが交代出場したことに気づかなかったというお粗末さ。情けないと言えば情けないが、それだけ応援に熱中してたということにしておきます（苦笑）。

ま、冗談はともかく、記録はいつか途切れるもの。ホーム無敗はまた一から始めればいい。徳島戦からこっち、勝ちきれない試合が続いているが、今の岐阜に特効薬はない。この日のように、持てる力を出し切って、精一杯戦うこと。目標を達成するために、みんながひとつになって突き進もう！勝利はもちろん、収支も結果を出すために！！（ぐん、）

◇【ユース】苦戦が続くJユース杯、 それでも昨年より確実に成長しています。

●我らがF C岐阜ユースU-18（以下F C岐阜ユース）は、現在Jユースカップの予選リーグを戦っています。10月31日（日）にアウェーでアビスパ福岡ユースと、11月3日（水・祝）にホーム戦として飛騨市の古川ふれあい広場でジュビロ磐田ユースと対戦しました。結果はF C岐阜ユース0-10アビスパ福岡ユース（前半0-4 後半0-6）、F C岐阜ユース1-6ジュビロ磐田ユース（前半1-1 後半0-5）となっています。0勝0分5敗の勝点0、得失点差△30でダントツの最下位。まあ想定範囲内です（泣）。

でもサンドバック状態で手も足も出せなかった昨年の同大会と違い、今年は岐阜が自分達のプレーが出来、強豪チーム相手に「岐阜の時間帯」を持てていると言う点で物凄い進歩だと思います。11月21日（日）に予選リーグ最後の試合であるジュビロ磐田ユース戦があります。現在3名居る3年生にとっては最後の公式試合です。残念ながら私は観戦には行けませんのでこの場を借りて彼らに声を掛けたいと思います。

「お互いを信じて、悔いの残らないプレーをして来い！」

FORZA! F C岐阜ユース!!（シュナ）

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合
アットホームな韓国料理店
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅
から徒歩3分。
休：日曜日
（今日はお休みです）



※柏戦レポートの続きです。

●「悔しい！」の一言です。前回、色々な意味で悔しい想いをさせられた相手から一点も取れないわ、目の前で昇格を見送るわ、と散々でした。最初の失点をしてからバタついてまた失点、と悪いパターンは相変わらずで、心の強さはまだまだだと思いました。
(ブラウ@翠魂)

●このスタジアムに訪れるのは何回目だったか。そして、その度にゴール裏とピッチの距離に唸ってしまう。メインやバックスタはメドウでも遜色はないが、ゴール裏の最前列からゴールネットに手が届きそうな錯覚さえ感じてしまう。試合前のピッチ練習で、メドウならサイドスタンドめがけてシュートが飛んできてボールボーイが止めてくれることもできるが、日立台はボールボーイを立たせるスペースもないくらいだ。枠を外れて飛んでくるシュートのスピードたるや、そりゃあもう……。うっかり視線を外していると、痛い思いですめばマシ、という勢いで襲ってくる。あのスリルはたまらないね(笑)。どこかのちょっと勘違いなサポーターのおかげで、アウェイ・サポの行動範囲が限定されてしまったことだけが残念だ。意外だったのは、昇格がかかった試合だということにそこかしこに空席が目立ったこと。公式発表では9千人ほど。満員どころか一万人も入らなかったのはナゼだろう？さて、試合は0-3の完封負け。残念ながら今季の内には、柏からの勝ち点はもとより得点すら奪うことはできなかった。それでも、前半は全員が必死で走り回った結果、メドウでの試合ほど柏の選手に好き勝手はさせなかった。ただ、後半はそのツケが回ったのか集中力がやや切れたような形でセットプレーから失点。その後もギリギリでしのいでいたが、退場者が出てこられずに2失点。実際は退場者が出なくても、これくらいの結果になったかもしれないけれど。選手ひとりひとりを見て、技術や戦術眼といった基本的なことはもちろん、体幹の違いがまざまざと見て取れて、あれではウチの選手は相当キツかったに違いない。そんな試合の中、疑問だったのは後半アタマからの選手交代。そして、残念だったのは、せっかくシュートチャンスがあったのに、狙わずパスを選択した場面。録画で確認したら、鮮やかにミドル・シュートを決めた時より距離は長かったからやむをえないのかもしれないけど、彼なら十分狙えたはず。というより、チャンスなんだから思い切って狙ってほしかった。そういう攻めの姿勢を、挑戦する姿を見たくてスタジアムに足を運んでいるだけだね。今日から、ホーム3連戦。もう一ヶ月以上勝利がない。点を取らなきゃ勝てないんで、どんどん積極的にゴールを狙ってちょ！(ぐん、)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

Living in Woods

本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

●今季のJ2でダントツの首位を走っている柏レイソルとの対戦。相手はJ昇格が懸かった大事なホーム戦だが、だからこそ一泡吹かせたい試合。しかし、アウェイ日立台はメドウ並にピッチが近く、メドウ以上に多くのサポーターが入るスタジアム。しかも、そこに集っているのは昇格を待ちわびている柏サポだ。完全アウェイな雰囲気の中での試合だった。順位とは異なり、立ち上がりは岐阜の守備が光っていた。昇格を意識し過ぎた柏の選手達の動きが固かった事も理由なのだろうが、少し引いた位置でブロックを作り、スペースを消して集中力高く守る形が有効に機能していた。だが、折角ボールを奪い攻撃に転じようとしても、パスの精度やボールの貰い方が悪いので攻撃がなかなか機能しない。しかも、守備の形が崩れた際にボールを奪われるのことに気にしているのか、攻撃に厚みがなく、囲まれた仲間に対するフォローが足りない。そして、シュートで終われないままボールを奪われて再び攻められるので守備に費やす時間が長くなり、徐々に失点の危機が…という、ある意味では今年の特徴が非常に良く出ていた試合展開だった。

そして残念ながら、守備が良かったのは前半までだったように思う。ハーフタイムにウチは選手を交代して試合の流れを変えようとしたが、それが守備のバランスを崩したか、あるいは柏の修正がよかったのか、前半で飛ばしすぎて足が止まったのか。中盤が徐々に柏に支配され、特に敵#11レアンドロ・ドミンゲスには好き放題にされていく。その#11が後半12分に放ったファーサイドへのFKをヘディングで折り返され、これを押し込まれて失点…柏サポの声援が一気に勢いを増す。その迫力に吞まれてしまったのか、ウチの選手達の動きは更に悪くなる。特に左サイドからは何度も崩され、決定機を作られる。そして…右SE新井が不用意なプレーで不必要な警告を立て続けに受けて退場。2回目の笛でカードが出る前から自分から退場したことをみると、完全にキレていたようだった。彼に何があったのかは判らないが、非常に残念なプレーだったと思う。ここで、ほぼ勝負は決した。後半45分に守備ラインを崩されてミドルを撃たれ、2失点目。そしてロスタイムにもPKを献上し、3失点。ボールがゴールネットを揺らしたのと同時に試合終了、いわゆる「お見送り」をすることとなった。

選手が挨拶に来た後も、僕は向こうのG裏を見つめていた。悔しかったのもある。シュート数だけみても、前半は7本-5本に対し後半は10本-2本、しかもミドルしか撃てていない状況では完敗。それもあつたが、僕はこれまで昇格を喜ぶ側にいたことはあっても、反対側にいた経験がなかった。悔しさと羨ましさと祝福が複雑に入り交じったこの想いや景色を決して忘れないでおこうと思っていた。僕らは2年後のJ1昇格を目標にしているのだから。昇格した彼らと僕らでは何が違うのか、何が足りないのか、それを今日は見せつけられたのだと思う。今後のためには僕は考えないといけないと思うし、選手達やスタッフにも絶対に忘れて欲しくない。さて、今期も残り4戦となった。現在の順位は12位、しかも対戦相手は上位陣が並ぶ。しかし、ホーム3連戦と有利な状況もある。勝利を信じる僕らの声援と拍手で選手を後押しし、歓喜の万歳四唱を！(ささたく)

◇【編集部より一言】11/28のホーム最終戦号では毎年恒例の企画を行います。

●編集担当の吉田鑄造です。

11/28日発行予定の『岐大通』では、ホーム最終戦号恒例の今シーズンのベストゴール/ベストゲーム/MPを募集します。また、これも恒例の「今年の、そして来年のFC岐阜へ」もご投稿をお願い致します。
(吉田鑄造)

長良川球技 メドウを10倍楽しむ方法

みんなの手拍子で



選手に力を!
～ご協力お願いします～

タオマフ大作戦!



選手入場時 ... 高く掲げよう
ゴールチャンス ... 大きく振り回そう

ここ長良川球技メドウでは、太鼓などの鳴り物を使った応援ができません。しかし、選手の息づかいが聞こえそうなほどグラウンドまでの距離が近く、目の前で繰り広げられる真剣勝負にきっと気持ちは高まるはず。ウズウズしてきたら「手拍子」や「タオマフ」(タオルマフラー)で選手を勇気づけましょう。たとえひとりのアクションは小さくても、隣の人と、前後の人と、みんなでいっしょに応援すれば、大きな力になって、選手だけでなくあなたのハートもさらに熱くさせること間違いなし。「メドウ劇場」では、観客のあなたも大切なキャストなのです。

1人でも多くの方に楽しんでいただくために

席をつめてお座りください



↑ 荷物は足元をご利用ください

通路での観戦は ご遠慮ください



小さなスタジアムなので、席もスペースも限られています。みんなが気持ちよい時間を過ごせるように、ひとりひとりがマナーを守って観戦してください。